

説 教

Open Church 礼拝

北浜チャーチ

2024年1月21日（日）

黒田 禎一郎

主 題：「予防は治療に勝る」

—健康体—

テキスト：ルカ福音書18章9-14節

はじめに

・おはようございます。

- ・今年元旦から、能登半島で大地震が発生しました。そして雪降る真冬の中、救援復興活動が現在も必死に続けられています。私たちは本当に心を痛めています。不幸にも被害を受けた方々に、心からお見舞いを申し上げます。
- ・これは人災ではなく、自然による「天災」による被害です。

- ・ところで、昨年12月には、明らかに人災と言える不正事件が発覚しました。
⇒ダイハツ工業の品質不正問題
- ・車が市場に出る前の段階、つまり製造段階において、法規に定められた衝突試験の手順・方法に不正がありました。12月20日、会社側は174件の不正があったと発表。国内外64車種と、エンジン3種類の試験で不正が行われていました。
- ・古い不正行為は、1989年からあったことも判明しました。
車は安全性が求められだけに、これは許されない行為でありました。
明らかに人災であります。
- ・これを受けて、会社側は2024年1月末で、国内の全工場（大阪府、京都府、滋賀県、大分県）の生産を停止することになりました。国内の仕入れ先は423社、このうちダイハツへの売り上げ依存度が10%以上の会社が47社。内34社が中小企業です。経済的損失は、いかばかりでしょうか。多数の関連会社が、はかり知れない影響を受けています。
- ・ダイハツは、「軽自動車シェアランキング17年連続1位」とうたってきました。最大の問題は、会社の驕り（高慢）からくる「傲慢」に原因にあったと言われます。傲慢の方向に向かい始めると、横からの声に耳を貸しません。警告してくれる相談相手もいません。
- ・今回の不正事件は昨年始まったのではなく、30年以上も続いていたそうです。発覚は内部告発からでした。きっと人の良心が許さなかったのでしょう。

- **皆さん**。「傲慢」という問題は、いつの時代にもあります。
聖書の中にも、実は「高慢」な思いを持つ人のストーリーがあります。
今日はそのストーリーから、私たちの人生について考えてみましょう。

大切なポイント

1. 2人の異なる「祈りの人」

1) 2人の共通点 ルカ福音書 18章

18:9 自分は正しいと確信していて、ほかの人々を見下している人たちに、イエスはこのようなたとえを話された。

18:10 「二人の人が祈るために宮に上って行った。一人はパリサイ人で、もう一人は取税人であった。

- 2人の人が、宮に上りました。当時はエルサレムに神殿（宮）があり、ユダヤ人たちは常にそこに上り、祈り、礼拝を捧げていました。したがって、この例話は、分かりやすいものでした。
- 2人の共通点は、宮での「祈り」にありました。その意味で、2人とも宮に登ったことは幸いでした。なぜなら宮は、神の前で自分に向き合うところであるからです。
- しかし、その2人は相違点がありました。

2) 2人の相違点

(1) 宗教人パリサイ人

18:11 パリサイ人は立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私がほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でないこと、あるいは、この取税人のようでないことを感謝します。』

18:12 私は週に二度断食し、自分が得ているすべてのものから、十分の一を献げております。』

- パリサイ人というのは、ユダヤ教内の一派で、当時は最大勢力を持つグループでした。彼らは旧約聖書の教え（律法）を強調し、同胞に律法を守るように教えていました。イスラエル社会で大きな権威を握る最大宗教グループでした。それは宗教界のことですが、政治の世界では「派閥」とも言えます。
- パリサイ人の主張は、その祈りの中に表れています。

自分は他の人のように、

- ① 奪い取る者ではない（刑事上）
- ② 不正を行う者でもない（倫理的）

- ③ 姦淫する者でもない（道徳的）
- ④ 取税人のようではない（他人と比較）

- ・したがって、宗教人パリサイ人は、自分は正しいと譲りませんでした（不認知）。もし、文字通り彼の祈りの内容を受け止めるならば、彼は実に立派な人（人格者）でありましょう。
- ・今の時代も、自分は正しい、不正を行なっていないと言う人はいます。自分はやるべきことをやっているし、それに自分には宗教心があり、慈善的行為もしていると、考える人は結構多いものです。それが宗教人パリサイ人の祈りの姿でした。

（2） 取税人

18:13 一方、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸を、たたいて言った。『神様、罪人の私をあわれんでください。』

- ・取税人の祈りには、彼の主張が出ています。
取税人は当時、嫌われ者、悪人と考えられていました。なぜなら当時のイスラエルは、ローマ帝国によって統治されていました。ローマ帝国は巨大な権力を持ち、人々から「人頭税」という税制度をおいていました。
- ・「人頭税」⇒ ユダヤ人に対し一定金額の税金が課せられ、ローマ国家に納税義務が強いていました。取税人はローマに納める税金を徴収し、その上にさらにお金を上乗せし、その分を自分のポケットに納めていました。ローマ国家はユダヤ人からの税金徴収に、同じユダヤ人を使いました。ですから、取税人はローマ帝国の手先であると考えられ、同胞からは嫌われ者でした。
- ・そのような取税人の祈りに注目してください。もう一度お読みしましょう。
18:13 一方、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸を、たたいて言った。『神様、罪人の私をあわれんでください。』
⇒ 彼は自分の真の姿が分かっていた。
- ・彼は同胞から不正に税金を取りたて、良心に呵責があったことでしょう。
 - ① 「遠く離れて立ち遠く離れて立ち」（罪責感）
 - ② 「目を天に向けようともせず」（認知）
 - ③ 『神様、罪人の私をあわれんでください。』（告白）
- ・イエスは、このように2人の異なる人を例にあげられました。そこでイエスの評価をみてみましょう。

2. イエスの評価を見る

1) イエスの視点

18:14 だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。

- ・イエスの視点は違っていました。自分を神の前に低くする者は、高くされます。それは祝福の原則です。
- ・皆さん、人間は、物事がスムーズに流れると高慢となり、それが傲慢となります。他人の忠告に耳を貸しません。そこに大きな危険性があります。

『例 話』

- ・失敗ばかりを集め、失敗の原因を突き詰める「失敗学」という研究があります。そこに「失敗知識データベース」という調査記録があります。

失敗の原因は大別して3つあります。

- ① 人間的原因によるミス (human error)
- ② 設計ミスによる
- ③ 組織の問題によるミス

- ・興味深いことは、専門家は「これらの人間的ミスの原因は、実は避けることが可能である」、と述べていることです。

「傲慢症」⇒やがて自ら衰退する（人間的原因によるミス）

2) 解決策はどこに

- ・どうすれば良いでしょうか。 イエスは言われました。

18:14 だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。」

- ・自分を低くして、問題を起こす人は先ず少ないでしょう。むしろ心からの謙遜な態度は、評価を受けるのではないのでしょうか。 イエスは言われました。

マタイ福音書 11 章

11:29 わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

- ・「くびき」とは、2頭 (or 匹) の家畜が、首にはめる農器具です。日本では農作業などで、田んぼや畑で見られます。イエスとくびきを共にすることは、イエスと共に歩むことです。
- ・イエスの特徴は；
 - ① 「わたしは心が柔和でへりくだっている」
 - ② 「わたしから学びなさい」

③ 「たましいに安らぎを得ます」

*イエス・キリストに学ぶことです。それは病気にかかる前に、自分の健康を維持するための「予防」であります。

ま と め

主 題：「予防は治療に勝る」

—健康体—

- あなたの人生、いかがでしょうか。人生で失敗を防ぐために、どんな予防をしておられますか。今日は次のみことばを覚えてください。
- 18:14 **だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。」**

* God bless you!

*